

# 平成 16 年度事業報告

会長・理事 甘 利 俊 一

前期会長・理事	伊賀健一	理事	須藤昭一	理事	赤岩芳彦
次期会長・理事	齊藤忠夫	理事	酒井善則	理事	今井元
副会長・理事	三木哲也	理事	阪田史郎	理事	中嶋正之
副会長・理事	池上徹彦	理事	成宮憲一	理事	築山修治
副会長・理事	鈴木滋彦	理事	小柴正則	理事	持田侑宏
副会長・理事	白川 功	理事	森広芳照	理事	中沢正隆
理事	小林功郎	理事	篠田庄司	理事	雨宮真人
理事	中野博隆	理事	古井貞熙	監事	弓場英明
理事	津田俊隆	理事	高木幹雄	監事	後藤裕一
理事	間瀬憲一	理事	中村勝洋		

## 事業概況

平成 16 年度は昨年度に引き続きソサイエティ活動の自立化に向けた取組みを本部と連携を取りながら推進した。

本部の活動としては会員へのサービスの向上を継続して進め、平成 14 年度に開始した「研究発表と教育を両輪とした取組み」を継続して行動の基本姿勢におき、平成 16 年度はこの取組みを更に発展させた。

### (1) 会員サービスの向上としては

- 会誌の改善を更に進め、記事内容の見直しを推進し、より身近な機関誌とした。また、会誌創刊号から平成 16 年 12 月号までを DVD 化し、本年 3 月に発行した。
- 情報セキュリティハンドブックを発行するとともに、第 8 次総合版ハンドブック (Web 形式) について具体的に検討を進めた。
- 選奨検討委員会を発足させ、選奨に関する取組みを充実させた。
- ・ Student Branch への参加校数の増大を中心に学生会の活動を推進した。
- ・海外地域代表者制度の定着化、参加地域数の増大を図った。
- ・先端オープン講座、各種専門講習会を開催した。
- ・大学の教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」のシリーズの充実を促進した。

### (2) ソサイエティに関連する活動としては

- ペーパーレスの電子ジャーナル (ELEX: IEICE Electronics Express) を平成 16 年 4 月に創刊し、順調に発行を続けた。
- 各研究会が共通に利用できる電子的な研究会発表申込システムの運用を開始した。
- ・電子ジャーナル時代の会員制度のあり方の検討と合わせて、学会費とソサイエティ会費のあり方について方向付けの検討を行った。
- ・「FIT (Forum on Information Technology); 情報科学技術フォーラム」を情報・システムソサイエティ (平成 16 年度担当)、ヒューマンコミュニケーショングループ、情報処理学会の合同で開催した。

### (3) 教育面での活動としては

- CPD (Continuing Professional Development) 部会は、電気学会、情報処理学会と協力して CPD を推進するために電気電子・情報系 CPD 協議会の設立に合意し、活動を開始した。
- ・ JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) 本体の活動に協力し、連携を密にして取組みを進めた。
- ・平成 14 年度から開始された大学の教育プログラムの審査・認定に関しては、平成 16 年度も引き続き電気学会、情報処理学会との連携を密にしなが、審査活動を行った。
- ・認定企画実施委員会 (APC: Accreditation Policy Council) の下に構成した部会活動を展開し、分野別の内容例示の充実や教育貢献度評価法の提言、等具体的な活動を推進した。
- ・本学会が主催する JABEE 自主研修会を年 2 回開催し、審査員の養成、既に研修を受けた人に対する変更事項の周知等の活動を行った。

### (4) その他の事項としては

- 青少年の科学離れを阻止するための「子供の科学教室」活動を継続し、既に一部試行した支部との連携を更に発展させ、地域に根差した活動として展開した。平成 14 年度、15 年度はその活動原資として会員からの寄付を募った。16 年度も同じ形で会員の寄付を募り活動の充実を図った。
- ・平成 15 年度に発足した「電気・情報関連学会連絡協議会」において直面している／あるいは長期的な共通問題に対して協議した。
- ・平成 15 年 7 月に発足した「男女共同参画委員会」において、女性会員が積極的に学会活動に参加できるようにするための活動を行った。会員に関してアンケートを実施した。
- ・平成 15 年度科学研究費補助金 (5 年間) による日本の卓越技術のデータベース作成を本年度も継続して推進した。
- ・ホームページを中心とした広報活動の充実を努めた。
- ・会員増強に向けて継続的に活動した。会費未納会員へ

の繰返し要請や退会維持員への再要請等を行った。

- ・編集連絡会では、論文誌の一層の質の向上を図るため、査読委員並びに編集委員を対象とした論文査読に関する説明会を総合大会の会場で開催した。

以下に各事業の実施状況を報告する。(○は16年度に新規に行ったもの)

(氏名につきましては、敬称を略させていただきます)

## I. 本 部 事 業

### 1. 出版に関する事項

#### 1.1 会誌の発行状況 (定款 第6条 イ)

全会員に共通の場として重要なメディアである会誌は、平成16年4月から17年3月まで12冊、合計432,800部(月平均36,070部)を発行配布した。

また、アーカイブ化の一環として、創刊号(大正6年)～平成16年12月号までの会誌記事を2枚組のDVDに収録し販売を行った。

平成16年度の会誌記事の内容・件数及びページ数は次のとおりである。

種 類	件数	ページ数	種 類	件数	ページ数
講 演	1	5	学生/教養のページ	14	50
4月小特集(最大のフロンティア「脳」の解明に挑む—神経生理計測と神経科学—)	7	41	オピニオン	2	7
5月特集(ユビキタスコミュニケーション—どこでもネットワーク技術—)	15	85	ニュース解説	26	39
6月小特集(応用分野が広がる複素ニューラルネットワーク)	10	47	総合報告	1	15
8月小特集(夏休み特集—夏休みを有意義に過ごす—)	11	50	ソサイエティのページ	2	3
9月小特集(次世代のITSを目指して—ミリ波の応用—)	6	27	情報ネット—今 学会では—	6	35
10月特別小特集(ユビキタスネットワーク時代のEMC)	10	28	学生会報告	2	10
11月特集(日本のモノづくりを支える Jisso 技術)	16	79	支部だより	1	0
12月小特集(快適コミュニケーションを支える—進化するネットワーク管理技術—)	7	40	予定目次	11	0
1月特別小特集(未来への手紙)	6	22	学会ニュース	3	1
2月小特集(電磁波の医療機器への影響について)	6	24	慶 賀	1	1
3月小特集(アクセスネットワーク技術—多様化とブロードバンド時代はどのように現実化したか—)	8	49	追 悼	2	2
解 説	30	186	追 悼 抄	2	2
講 座	10	68	国際会議	28	7
寄 書	3	14	図書紹介	20	10
回 想	2	10	国内文献目次	7	7
			図書寄贈一覧		
			本会だより		
			編 集 室		
			役員等口絵		
			総会・選奨		
			フェロー口絵		
			会誌総目次		
			学会編集室		
			会 報		
			計	1,098	
			巻 頭 言	12	12
			目 次	12	36
			会 告		644
			合 計		1,790

\*その他: 広告(カラー, 前付, 後付等) 328 ページ

#### 1.2 広告賞について (定款 第6条チ)

平成16年広告賞として下記の2点を選定した。

【カラー広告部門】 富士通(株)  
「人と地球の、自然なサイクルのために。」(1月号)

【一色刷り広告部門】 古河電気工業(株)  
「暮らしへ、未来へ、信頼の光ネットワーク。」(2, 10月号)

#### 1.3 ハンドブックについて (定款 第6条ト)

次期総合版ハンドブックについて、全電子化し、データベース化したハンドブック(知識データベース)として構築するための検討を行った。

また、新刊ハンドブックを1点発行した。

新 刊 書 名	発行年月日	頁数	部数
情報セキュリティハンドブック	H16.11.30	602	2,000

#### 1.4 単行本 (定款 第6条ト)

平成16年度は新刊2点2,200部、重版9点2,900部を発行した。

なお、平成16年度からは従来のA5判に加えて、B5判単行本の企画を開始、第1弾として「Web サービスコンピューティング」を刊行した。

新刊書は次のとおりである。

新 刊 書 名	判型	発行年月日	頁数	部数
シリコンの科学	A5	H16.6.1	144	1,000
Web サービスコンピューティング	B5	H17.2.1	176	1,200

#### 1.5 教科書「電子情報通信学会大学シリーズ」の発行 (全59巻) (定款 第6条ト) (コロナ社委託出版)

昭和55年8月以降既刊書目51点、平成16年度は重版20点を発行した。

#### 1.6 教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」(全63巻) (定款 第6条ト) (コロナ社委託出版)

大学院及び学部の学生を対象とし、併せて一般勉学者の参考に供するための新シリーズの教科書として平成16年度は新刊1点、重版3点を発行した。

新刊書は次のとおりである。

新 刊 書 名	発行年月日	頁数	部数
情報・符号・暗号の理論	H16.10.5	220	1,200

(平成14年3月第1回配本以降通算13点)

### 2. 規格調査会に関する事項 (定款 第6条ニ)

委員会議を4回、専門委員会及び小委員会を87回開催した。取り扱ったIEC文書は502件で、そのうち176件に対して日本の意見を回答した。

	専門委員会名	専門委員長名	委員数		開催数	
			専門(委)	小(委)	専門(委)	小(委)
1	規格調査委員会議	高木 幹雄	16	0	4	0
2	電子部品のデータ要素	高木 幹雄	0	25	0	6
3	通信用伝送線路	西村 陽	12	40	4	18
4	周波数制御・選択デバイス	兒島 俊弘	24	21	4	9
5	光ファイバ	羽鳥 光俊	20	65	4	16
6	デザインオートメーション	高木 幹雄	17	35	6	6
7	無線通信用送信装置	福地 一	15	0	1	0
8	電子通信用語	吉村 久乗	24	0	2	0
9	電子通信記号		14	0	0	0
10	複雑システムの安全規格検討	鈴木 喜久	10	0	7	0
合 計			152	186	32	55
					87	

### 3. 選奨に関する事項

平成16年7月に新設した「選奨検討委員会」において、新たな賞の新設、選奨に関する規程類の見直し等の検討を行った。

本年度の各選奨は所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

#### 3.1 功績賞 (第66回) (定款 第6条ホ)

石川 宏 (NTT-AT)  
 稲垣 康 善 (愛知県立大)  
 笠原 正 雄 (大阪学院大)  
 田崎 三 郎 (尾道大)  
 山田 宰 (パイオニア) 以上5名

#### 3.2 業績賞 (第42回) (定款 第6条ホ, へ)

選奨規程第9条イ項によるもの (業績名五十音順)

業 績	貢 献 者 (所 属)
画像情報の圧縮と処理に関する先駆的研究	谷本 正幸 (名 大)
回路と情報通信のグラフ・ネットワーク理論的研究への先駆的貢献	篠田 庄司 (中 大) 仙石 正和 (新潟大)
光CDMA ネットワークの先駆的研究	北山 研一 (阪 大) 塚本 勝俊 (阪 大)

以上3件

選奨規程第9条ロ項によるもの (業績名五十音順)

業 績	貢 献 者 (所 属)
地上デジタル放送伝送方式の研究開発	山田 宰 (パイオニア) 斉藤 正典 (NHK) 黒田 徹 (NHK)
超小型無線 IC タグ技術の開発と実用化	宇佐美光雄 (日 立)
文書処理におけるヒューマンインタフェース技術の開発と実用化	土井美和子 (東 芝)

以上3件

#### 3.3 論文賞 (第61回) (定款 第6条ホ, へ)

(分冊別掲載年月順)

A	論文名 著者名 掲載年月	オクターブ類似性に基づくオーディオ信号への電子透かし 村松 巖・荒川 薫 (明大) 平成16年6月 (A)
A	論文名 著者名 掲載年月	Efficient Secret Sharing Schemes Realizing General Access Structures 栞窪孝也 (東芝) 平成16年7月 (EA)
A	論文名 著者名 掲載年月	Blind Source Separation for Moving Speech Signals Using Block-wise ICA and Residual Crosstalk Subtraction 向井 良・澤田 宏・荒木章子・牧野昭二 (NTT) 平成16年8月 (EA)
B	論文名 著者名 掲載年月	優先制御によるデータ転送のユーザ効用最大化 矢守恭子・田中良明 (早大) 平成15年10月 (B)
B	論文名 著者名 掲載年月	干渉キャンセラを用いたCDMA セルラシステムの上りリンク特性 鈴木利則 (KDDI 研) 平成15年11月 (B)
B	論文名 著者名 掲載年月	MIMO 固有モード通信システムの構築と測定実験結果 阪口 啓・ティン シーホー・荒木純道 (東工大) 平成16年9月 (B)
C	論文名 著者名 掲載年月	半導体モノリシック集積型 64ch-WDM 用チャネルセレクト 柴田泰夫・菊池順裕・東盛裕一 (NTT) 平成15年10月 (C)
C	論文名 著者名 掲載年月	高温超伝導体を用いた単一磁束量子 (SFQ) サンプラー 日高睦夫・丸山道隆・佐藤哲朗 (NEC) 平成15年11月 (C)

C	論文名 著者名 掲載年月	はんだパンブ電極を用いたフリップチップ実装におけるパンブ電極変形量のフラックス依存性評価 山田 浩・梅峯 隆 (東芝) 平成16年7月 (C)
D	論文名 著者名 掲載年月	論理回路に対するテストコスト削減法—テストデータ量および実行時間の削減— 樋上喜信 (愛媛大), 梶原誠司 (九大), 市原英行 (広島市大), 高松雄三 (愛媛大) 平成16年3月 (DI)
D	論文名 著者名 掲載年月	Multi-stage Unsupervised Learning for Multi-body Motion Segmentation 菅谷保之・金谷健一 (岡山大) 平成16年7月 (ED)
D	論文名 著者名 掲載年月	非可聴つぶやき認識 中島淑貴 (奈良先端大), 柏岡秀紀・キャンベル ニック (ATR), 鹿野清宏 (奈良先端大) 平成16年9月 (DII)

(A,B,C,Dは分冊名) 以上12編

#### 3.4 猪瀬賞 (第11回) (定款 第6条ホ, へ)

論文名 著者名 掲載年月	非可聴つぶやき認識 中島淑貴 (奈良先端大), 柏岡秀紀・キャンベル ニック (ATR), 鹿野清宏 (奈良先端大) 平成16年9月 (DII)
--------------------	--

以上1件

#### 3.5 学術奨励賞 (第67回) (定款 第6条ホ, へ)

A. 基礎・境界 (ソサイエティ別五十音順)

受 賞 者	講 演 題 目	大会別・講演番号
奥畑 宏之 (シンセシス)	Retinex 輝度補正のリアルタイム動画向け演算削減手法	ソサイ A-4-22 エティ
鹿川 大輔 (琉球大)	複数の最小木を考慮したインタラクティブ進化計算による遺伝子発現データ・クラスタリング	ソサイ A-12-5 エティ
駒野 雄一 (東芝)	ES 方式の通信効率に関する再考察 確率的多重署名方式に用いる乱数成分の最適長評価	総合 A-7-7 ソサイ A-7-1 エティ
佐藤 倫久 (東京電機大)	連想記憶カオスニューラルネットワークの強化学習を用いた反カオス制御における入力時系列の解析	ソサイ AS-2-5 エティ
鈴木百合子 (NHK)	点接触型触力覚提示装置における3Dオブジェクトのポリゴン数と曲面認知	総合 A-19-7
嶽 奈津美 (徳島大)	カオス信号を利用したUWB レーダシステム	総合 SA-2-6
長谷川 浩 (東工大)	A Successive Least-Squares Super-Resolution of MPEG Video Sequences	総合 A-4-8
幡生 敦史 (NEC)	C 言語設計によるMPEG-4 ビデオコーデック LSI の開発	総合 A-3-17
細川 晃平 (NEC)	FPGA と多機能デバッグによるカスタムプロセッサの検証手法	総合 A-3-3
宮里 千尋 (琉球大)	進化ツリーベース法によるマルチプルアライメント	ソサイ A-12-4 エティ
和田 昌浩 (甲南大)	複数状態を有するカオス回路の結合系にみられる同期モード	ソサイ A-2-16 エティ

計11名

B. 通信

受 賞 者	講 演 題 目	大会別・講演番号
猪鹿倉知広 (NEC)	状態に依存したポリシ制御を実現するためのポリシ遷移モデル	総合 B-14-22
今井 尚樹 (KDDI 研)	プレゼンスサーバを利用した異種ネットワーク間におけるリソース切替え機構	ソサイ B-7-45 エティ
大垣 健一 (KDDI 研)	GMPLS ネットワークにおけるOSPF 制御トラヒック量に関する実験的解析	総合 B-12-4

梶田 剛広 (早大)	マルチキャストコンテンツ配信間隔と配信サーバ選択ユーザ効用を考慮したマルチキャスト呼受付制御	総合 B- 6- 8 ソサイ B- 6-125 エティ
亀井 聡 (NTT)	P2P ネットワークの規模推定に関する一考察 エンドホストオーバーレイネットワークによるトラフィックエンジニアリングとインターネット環境におけるその有効性	総合 B- 7-83 ソサイ BS- 5- 3 エティ
狩野 秀一 (NEC)	スケラブルなルータクラスタリング方式の提案	ソサイ B- 6-86 エティ
岸山 祥久 (NTT ドコモ)	下りリンク VSF-OFCDM ブロードバンド無線アクセスにおける適応変復調・チャネル符号化の屋外実験結果 下りリンク VSF-OFCDM ブロードバンド無線アクセスにおけるセクタ間干渉を考慮したスループットの場所率特性の屋外実験結果	総合 B- 5-94 ソサイ B- 5-110 エティ
國頭 吾郎 (NTT ドコモ)	A Stray Object Detection Method Based on Active Tags	総合 B- 7-51
小出 俊夫 (NEC)	P2P 型レイヤ2 仮想網におけるトポロジ構成手法の提案	ソサイ B- 6-60 エティ
小島 久史 (NTT)	マルチレイヤサービスネットワークにおける IP/MPLS ネットワーク収容方式 動的光パス設定時におけるアドレス設定簡易化方式の一検討	総合 B- 6-150 ソサイ B- 6-117 エティ
後藤 薫 (NICT)	繰り返しパルス雑音によるデジタル通信の品質劣化と APD 測定値との相関 擬似雑音発生装置による W-CDMA の通信品質劣化と APD 測定値の評価	総合 B- 4-85 ソサイ B- 4- 5 エティ
小宮 一公 (NTT ドコモ)	CDMA 基地局アダプティブアンテナにおける垂直面内指向性制御の効果	ソサイ B- 1-187 エティ
柴山 大樹 (NTT)	RFID を用いた情報取得システムの検討 —概要とハードウェア—	総合 B- 5-138
嶋田 将大 (福井大)	広帯域3素子八木・宇田アンテナの構造 GA を用いた広帯域平板モノポールアンテナの設計	総合 B- 1-131 ソサイ B- 1-70 エティ
周 健 (NTT)	ホーリーファイバの強度に関する検討 PCF の固有損失に関する検討	総合 B-13-20 ソサイ B-13- 9 エティ
須山 聡 (東工大)	ガード・インターバルを超えるマルチパス遅延環境における簡略化 MIMO-OFDM ターボ等化器 サブキャリア位相ホッピングを用いた MIMO-OFDM 伝送	総合 B- 5-34 ソサイ B- 5-13 エティ
諏訪 啓 (三菱電機)	95GHz 帯における砂・砂利の偏波特性データ収集実験 その2	総合 B- 2-16
田上 敦士 (KDDI 研)	GMPLS ネットワークにおけるレイヤ間連携動作安定化手法の提案 受動ピアに基づくドメイン間 P2P トラフィックの解析	総合 B- 6-149 ソサイ B-19-11 エティ
田草川英明 (富士通)	アプリケーションに応じたハンドオーバー技術の開発	総合 B-15-26
竹田 大輔 (東芝)	適応変調システムにおける閾値可変制御に関する検討	総合 B- 5-175
田邊 康彦 (東芝)	Group Detection と Sphere Decoding を併用した MIMO 受信アルゴリズムの演算量削減に関する検討	ソサイ B- 5-24 エティ
中島 久雄 (富士通研)	トランスルーセントネットワーク設計における偏波モード分散補償器の効果的設置手法	ソサイ B-10-36 エティ
中谷 勇太 (富士通)	RF 処理型適応アレーアンテナにおけるチャネル推定方法の一検討	総合 SB- 1- 3
西村 健治 (NTT ドコモ)	Advanced Mobility Management Architecture for IP <sup>2</sup> (Ⅲ)	ソサイ B- 6-12 エティ
西山 伸英 (NTT)	ユーザ環境に応じた機能適応・拡張を可能とするユーザネットワーク管理方式の検討 Web サービス合成技術を用いたユーザネットワーク運用サービス合成方式	総合 B-14-16 ソサイ B-14-15 エティ
花澤 理宏 (通信総研)	ミリ波帯における液体の誘電率測定に関する基礎検討	総合 B- 4-45

馬場 輝幸 (NEC)	階層化ノードにおけるリンク属性決定方法の提案 GMPLS 制御プレーンにおけるリンク属性自動設定方式の提案	総合 B-12- 2 ソサイ B-12- 9 エティ
廣岡 俊彦 (東北大)	光フーリエ変換を用いた超短光パルスの無歪み伝送 時間領域光フーリエ変換を用いた 160Gbit/s 光伝送信号の適応等化	総合 B-10-118 ソサイ B-10-63 エティ
福元 暁 (NTT ドコモ)	周波数繰り返しセル数を可変する動的周波数割当法の検討	ソサイ B- 5-46 エティ
福家 直樹 (KDDI 研)	端末間直接通信を用いたマルチホップセルラー網の接続率に関する一検討 移動環境下における EV-DO/ 無線 LAN 中継装置のスループット特性	総合 B- 5-123 ソサイ B- 5-199 エティ
藤井 勝之 (千葉大)	人体を伝送路として利用したウェアラブル機器の高周波化および小形化における受信電圧特性 人体を伝送路として利用したウェアラブル機器間通信における人体表面近傍の伝搬成分の計測と解析	総合 B- 1-48 ソサイ B- 1-34 エティ
ポーンアノン ボンバイブル (東京農工大)	Improvement of the Accuracy in FDTD Analysis of Dipole and Square Loop Antennas	総合 B- 1-119
水野 晃平 (NTT)	マルチホップ型アクティブタグにおける受信特性評価 アクティブ型 RFID タグのエネルギー効率特性評価	総合 B- 5-192 ソサイ BS- 7-17 エティ
道下 尚文 (防衛大)	寄生素子付容量装荷モノポールアンテナ ダイポールアンテナの導体抵抗の FDTD 解析	総合 B- 1-244 ソサイ B- 1-84 エティ
元吉 克幸 (三菱電機)	4G SDR 端末搭載用サンプルレート変換フィルタの試作評価	総合 B-17-13
森川 大補 (KDDI 研)	個人環境プロファイルのデータ構造と更新手法 ユーザプロファイルに適合するポータル画面更新に関する一検討	総合 B-15- 1 ソサイ B- 6-65 エティ
山下 史洋 (NTT)	無瞬断シンボルレート可変モデムの提案 100Mbps を実現する衛星 MIMO システムの提案	総合 B- 3-25 ソサイ B- 3- 5 エティ
矢守 恭子 (早大)	最低保証帯域幅の品質評価と支払意思額の関係	ソサイ B-11-11 エティ
吉岡 博 (NTT)	多値 QAM 変調方式を使用した FWA システムに適用するビタビ等化器の簡略化に関する一検討 64QAM を使用した FWA システムに適用する簡略型ビタビ等化器の検討	総合 B- 5-206 ソサイ B- 5-142 エティ
米澤 健也 (KDDI 研)	5GHz 帯マクロセルシステムにおける伝搬モデル確立のための比較実験 屋外 MIMO システムにおける伝送容量特性の実験的検討	総合 B- 1- 5 ソサイ B- 1-19 エティ

計 40 名

### C. エレクトロニクス

受賞者	講演題目	大会別・講演番号
浅香 航太 (NTT)	1.55 $\mu$ m 帯埋込み VCSEL の熱抵抗評価	ソサイ C- 4- 2 エティ
弥政 和宏 (三菱電機)	Ka 帯 5W MMIC 電力増幅器	ソサイ C- 2- 6 エティ
大平 昌敬 (同志社大)	任意形状の窓を有する導波管帯域阻止フィルタの最適化設計	総合 C- 2-114
木下 延博 (NHK)	ホログラム記録における角度選択性の FDTD 解析	ソサイ C- 3-81 エティ
酒井 雄二 (三菱電機)	Ku 帯 40W 高効率半導体電力増幅器	総合 C- 2-44
坂元 明 (フジクラ)	エキシマランプ照射による紫外線感受性ロッキング効果 高遮断特性を有するチャプットファイバグレーティング	総合 C- 3-32 ソサイ C- 3-37 エティ



清水 隆志 (埼玉大)	80GHz 空洞共振器を用いた遮断円筒導波管法による複素誘電率測定	総合 C- 2-83
相馬 俊一 (NTT)	PLC 型光スイッチと VOA の高性能化	ソサイ C- 3-32 エティ
高橋 英憲 (KDDI 研)	反転した群遅延共振ピークを用いたリング共振器型可変分散補償デバイスの帯域利用効率拡大 リング共振器型可変分散補償デバイスの偏光依存屈折率差の低減	総合 C- 3-93 ソサイ C- 3-27 エティ
竹中 充 (東大)	多モード干渉カプラ型安定半導体レーザを用いた全光フリップ・フロップ動作	総合 C- 4-30
田中 雅光 (名大)	単一磁束量子マイクロプロセッサ CORE1 の動作実証 メモリを搭載した単一磁束量子マイクロプロセッサ CORE1 の動作実証	総合 C- 8-11 ソサイ C- 8- 2 エティ
土居 芳行 (NTT)	マルチモード出力導波路 AWG を用いた 1.25Gb/s × 8 チャネル CWDM 受信モジュール PLC ハイブリッド集積技術を用いた 10Gb/s × 4 チャネル WDM 送信・受信モジュール	総合 C- 3-60 ソサイ C- 3-12 エティ
中戸川 剛 (NHK)	光 SSB 変調器を用いた地上デジタル放送のミリ波光伝送	総合 SC-13- 9
濱野 聡 (三菱電機)	フリップチップ実装を用いた 38GHz 帯低位相雑音 GaAs HBT VCO ミリ波帯 MMIC VCO の周波数補正方法に関する検討	総合 C- 2-19 ソサイ C- 2-23 エティ
原島 正幸 (長岡技科大)	Si(001)-c(4×4) テンプレート基板作製に向けた表面構造解析	ソサイ C- 6- 5 エティ
松本 好太 (青学大)	電子レンジ庫内に配置した負荷変化に対する加熱効率特性の解析	総合 C- 2-134
吉松 俊英 (NTT)	モノリシック PD-EAM 光ゲート素子による 100Gbit/s エラーフリー波長変換 PD-EAM 光ゲート素子による 100Gbit/s エラーフリー波長変換の実現	総合 C- 4-34 ソサイ C- 4-39 エティ

計 17 名

#### D. 情報・システム

受賞者	講演題目	大会別・講演番号
伊藤 洋輔 (慶大)	未校正多視点可動カメラを用いた高精細な自由視点画像生成	総合 D-12-171
大竹 剛 (NHK)	多変量解析を用いた特徴量抽出方式による番組識別実験	総合 D-11-115
木村 健二 (慶大)	テニスの多視点画像からのプレイヤー視点映像の生成法	総合 D-12-172
清水 智行 (KDDI 研)	H.264 符号化処理における Intra/Inter モード判定に関する一検討	総合 D-11-51
谷田 隆一 (NTT)	H.264/MPEG-4 AVC における線状ノイズ抑制アルゴリズムの検証	総合 D-11-38
中平 浩二 (東大)	Web における画像要素の分類とその検索システムへの応用	総合 SD- 1- 3
中村 健 (NTT)	超高精細映像用 MPEG-2 エンコーダの試作	総合 D-11-74
原 直弘 (NHK)	符号化映像におけるフリッカ劣化の低減	総合 D-11-36

計 8 名  
以上 合計 76 名

#### 4. 関連学術団体との連携に関する事項 (定款 第 6 条チ)

平成 16 年度は、下記のほかに 257 件の協賛・後援等を行った。

- ・ 2005 年情報学シンポジウム「社会システムを支える情報学」  
(平成 17 年 1 月 20 日, 21 日 日本学術会議主催)
- ・ 第 26 回宇宙ステーション利用計画ワークショップ

平成 16 年度事業報告

(平成 16 年 9 月 7 日, 8 日 宇宙航空研究開発機構主催)

#### 5. 先端オープン講座に関する事項 (定款 第 6 条ロ)

平成 16 年度は、前年度に引き続き厳しい業務環境が続いており、受講者確保のため、① CPD との連携に向け関連学協会と協賛し、周知・宣伝を図った。② 新設コースによる新規受講者の開拓。③ 継続的受講を推進するため初回と 2 回以上で受講料に差を持たせた。支出面では、受講人数に対応した会場の選択、印刷単価の見直し、少人数コースの開催中止等を行い経費節減に努めた。春季講座 (5 月 8 日～7 月 3 日) と秋季講座 (10 月 2 日～12 月 4 日) を各週土曜日・10 週間 (30 時間) にわたり開講し (春・秋季講座とも 5 週間 (15 時間) の講座も開講)、受講状況は次のとおりであった。

##### 〔春季講座〕

コース別	受講者数 ( ) : 内団体受講数
A : 情報通信ネットワーク	22 名 (2)
B : システム LSI 設計技術	13 名 (2)
C : ソフトウェア工学と新しいソフトウェア技術	10 名 (2)
Ca : ソフトウェア工学	1 名
D : 情報通信プロトコル	10 名 (1)
Da : インターネットプロトコル	6 名
E : Java 技術	9 名
F : セキュリティ技術	20 名 (2)
計	91 名

(注) 基礎講座 A・B・C・Ca コース, 専門講座 D・Da・E・F コース  
(ただし, Ca・Da・E・F コースは全 5 回の講座)

##### 〔秋季講座〕

コース別	受講者数 ( ) : 内団体受講数
A : 情報通信ネットワーク	15 名 (4)
C : ソフトウェア工学と新しいソフトウェア技術	中止
Ca : ソフトウェア工学	7 名
D : 情報通信プロトコル	8 名
Da : インターネットプロトコル	7 名 (1)
E : Java 技術	6 名
F : セキュリティ技術	14 名
計	57 名

(注) 基礎講座 A・Ca コース, 専門講座 D・Da・E・F コース  
(ただし, Ca・E・F コースは全 5 回の講座)

#### 6. 専門講習会に関する事項 (定款 第 6 条ロ)

支部主催、本部支援の専門講習会を次のとおり開催した。

支部名	題目	開催年月日	参加者数	場所
東北	情報通信社会におけるアクセシビリティ向上に向けて	H17.1.28	73	岩手県立大学
信越	www 上の知的情報処理技術の最新動向	H17.2.4	35	信州大学工学部
東海	ユビキタスコミュニケーション技術	H17.2.4	69	ルブラ王山
関西	デジタル家電向けプラットフォーム技術の最新動向	H16.9.21	52	中央電気倶楽部

中 国	回路とシステムに関する専門講習会	H16.7.25	43	広島国際会議場
四 国	フリーソフトで始める・親しむPC-UNIX-Windowsと違う世界に触れてみよう！	H16.10.9 10.16	9	詫間電波工業高等専門学校
九 州	生体機能に学ぶ先端センサ技術	H16.10.22	66	熊本大学工学部

計7回

## 7. 普及啓発活動に関する事項（定款 第6条口、へ）

### 小・中・高校生を対象とした科学教室

子供の科学離れを防ぐための活動の一環としてこれまで行ってきたが、16年度も小・中・高校生の科学教室を推進した。

会員及び関連企業の協力の下に、各支部と連携して次のとおり活動範囲等を拡大しながら実施した。

また、本活動を支えている「子供の科学教室基金」を長期的、健全に維持するため、14年度から開始した募金活動を継続し、16年度は552名（個人会員532名、維持員5社、参加者15名）から約169万円の募金協力を得て基金に繰り入れた。

題 目・講 師（敬称略）	開催年月	参加数
科学実験教室（科学技術館会場） テ ー マ：アンテナの不思議 実 験：アンテナのしくみはどうなっているか確かめよう！ 講 師：羽石 操・木村雄一・斉藤作義（埼玉大） 共催支部：東 京	H16.4.24	24名
科学実験教室（科学技術館会場） テ ー マ：音の正体 講 師：大賀寿郎（芝浦工大） 共催支部：東 京	H16.5.23	20名
見学会：NHK放送技術研究所 講 演：映像の仕組み、音の響き 講 師：榎並和雅・中須英輔・伊藤泰宏（NHK） 共催支部：東 京	H16.6.26	71名
出前講演：日本科学未来館 テ ー マ：未来の携帯電話—ケイタイはどうなるの？— 講 師：中嶋信生（電通大） 共催支部：東 京	H16.6.27	30名
体験教室（科学技術館） テ ー マ：コンピュータ・プログラムを自作してみよう！ 講 師：浅見 徹・山崎克之(KDDI研)、野々山紫(NTT-AT) 共催支部：東 京	H16.7.18 午前・午後	17名
見学会：NTT技術史料館 講 演：電話の歴史と電話のしくみ 講 師：池田博昌（東京情報大） 共催支部：東 京	H16.7.22	21名
見学会：富士通川崎工場と富士通研究所 テ ー マ：「最新ディスプレイの技術」 講 師：持田侑宏・篠田 傳（富士通研） 共催支部：東 京 *午前（日本科学未来館友の会）と午後（科学技術館サイエンス友の会）別々に実施	H16.7.28 午前・午後 計2回	午前 16名 午後 13名 計29名
見学会：日本テレコムネットワークサービスセンター テ ー マ：電話のしくみ 講 師：寺田浩昭（高知工大） 共催支部：東 京	H16.7.30	18名
見学・体験教室：中央大学理工学部見学会 テ ー マ：コンピュータグラフィックスとバーチャルリアリティ 講 師：牧野光則（中大） 共催支部：東 京	H16.8.2	17名
見学会：NTTデータ霞ヶ関プレゼンテーションスペース INFORUM 共催支部：東 京	H16.8.3	14名

見学会：東芝科学館 テ ー マ：ケイタイなび —なんでケイタイで地図がわかるの？ 講 師：土井美和子（東芝） 共催支部：東 京 企 画：男女共同参画委員会	H16.8.23	35名
見学会：パナソニックセンター テ ー マ：ユビキタスネットワークの世界を体験してみよう！ ——最先端技術を使って恐竜化石研究の体験—— 共催支部：東 京	H16.8.25	15名
科学教室（群馬会場） テ ー マ：来て、見て、触る！エレクトロニクス体験教室 体験教室：「楽しい電子工作～ラジオをつくらう！～」 1. 「光でスイッチオンのデモ」 2. 「楽しい電子工作～ラジオを作らう！～」 講 師：小林春夫（群馬大） その他群馬大学工学部電気電子工学科の先生 共催支部：東 京	H16.8.27	53名
科学体験教室（大阪大学基礎工学部会場） テ ー マ：大阪大学基礎工学部システム科学科一日体験入学 特別講義：システム工学とは 講 師：谷内田正彦（阪大） 体験教室：8項目の実習から2つを当日選択して実習 (1) ゲームで学ぶオペレーションズ・リサーチ (2) コンピュータで倒立振子をたてる (3) モーフィングによる顔合成 (4) ロボットにさわってみよう！ (5) 画像処理 (6) マルチメディア処理を体験してみよう (7) 複合現実感技術による3次元ユーザインタフェース (8) アナログ計算機の計算原理を知らう	H16.9.12	22名
科学教室（秋田県立大会会場） テ ー マ：電子工作教室「ボイスレコーダーをつくらう」 講 師：阿部紘士、高山正和、戸花照雄（秋田県立大） 共催支部：東 北	H16.10.16	29名
科学教室（兵庫県立大会会場） テ ー マ：不思議いっぱい科学の世界 講演・体験：1. 技術の歴史 2. 通信の秘密を探る—携帯電話のしくみを勉強しよう— 3. パソコンの頭の中はどうなっているの？—パソコンのしくみ— 4. コンピュータがコンピュータを作る話 5. インターネットってどうなっているの？—ホームページ作成に挑戦してみよう！— 講 師：篠田庄司（中大）、池田博昌（東京情報大）、白川功（兵庫県立大）、築山修治（中大）、小山正樹（奈良先端大） 共催支部：関 西	H16.10.23	61名
科学教室（中央大会会場） テ ー マ：安心して生活できる社会をめざして 特別講演：ひみつの話 講 師：今井桂子（中大） 体験教室：大学ってどんなところかのぞいてみよう！ 共催支部：東 京	H16.10.31	54名
出前科学実験教室（日本科学未来館会場） テ ー マ：光通信ってなに？—アナログ通信とデジタル通信— 実 験：半導体レーザーとLEDを比べてみよう！ 講 師：今井 元、中嶋 薫（日本女子大） 共催支部：東 京	H16.11.6	17名
科学教室（沖縄会場：琉球大学） テ ー マ：大学ってどんなところかのぞいてみよう！ 講 演：1. 沖縄の子供たちへ 2. 琉球大学ってどんなところ？ 体験・実習：コンピュータグラフィックスの作成に挑戦してみよう！ 研究室訪問：パソコンでスーパーコンピュータ 講 師：翁長健治（デジタル社会総合研）、高良富夫（琉球大）、牧野光則（中大）、名嘉村盛和（琉球大） 共催支部：九 州	H16.11.27	91名
出前科学教室：（都立墨田工業高校） テ ー マ：携帯電話の仕組み 講 師：中嶋信生（電通大） 共催支部：東 京	H16.12.17	117名

見学会：(松下電器 IT プロダクツ事業部神戸工場) テーマ：コンピュータの仕組みについて 講師：藤崎仁美 (松下電器) 共催支部：関西 (情報処理学会関西支部と共催)	H17.1.15	43名
科学教室 (沖縄会場) テーマ：不思議いっぱい科学の世界 講演・体験：1. 沖縄の子供達へ 2. 技術の歴史 3. 通信の秘密を探る—携帯電話のしくみを勉強しよう— 4. 楽しいデジタルの世界—音と画像の信号処理のはなし— 5. コンピュータがコンピュータを作る話 6. インターネットってどうなっているの？—ホームページ作成に挑戦してみよう！— 7. デジタルとアナログ (保護者対象) 8. ネチケット (保護者対象) 講師：翁長健治 (デジタル社会総合研), 篠田庄司 (中大), 池田博昌 (東京情報大), 石井六哉 (横浜国大), 築山修治 (中大), 小山正樹 (奈良先端大), 白川 功 (兵庫県立大), 親泊信雄 (親子ネット) 共催支部：九州	H17.2.26	54名
科学教室 (大阪会場：大阪大学) テーマ：不思議いっぱい科学の世界 講演：1. 携帯電話の将来—これからのケータイはどうなるの？— 2. 「青い」信号を見たことがありますか？ —青色発光ダイオードと色のしくみ— 見学会：大学ってどんなところかのぞいてみよう！ 講師：中野博隆, 伊藤京子, 仲谷美江, 佐藤宏介 (阪大) 共催支部：関西 企画：男女共同参画委員会	H17.3.19	56名

計 24 回 908 名

## 8. 学生事業に関する事項 (定款 第6条へ, チ)

### 8.1 会誌「学生会報告」欄の掲載記事

各支部学生会の活動状況等を会誌「学生会報告」欄に掲載した。

- ・平成 16 年 7 月号：平成 15 年度各支部学生会事業報告
- ・平成 17 年 2 月号：各支部学生会員の感想

### 8.2 学生会員の入会勧誘

各支部に入会勧誘のために PR 用資料として、「ポスター」と宣伝を兼ねた「学生用入会申込書」をそれぞれ配布した。

また、各支部において学生会員増強基金を利用した学生会員勧誘が行われた。

### 8.3 学生へ情報小冊子の配布

学生への情報小冊子「学生の皆さんへ」を 10,500 部作成し、年 2 回学生会員及び各支部へ配布した。特に卒業(修了)予定の学生に対して会員資格手続きの早期連絡、正員に昇格する際の会費減額、会費未納者への支払勧奨を 1 月から毎月行い、会員継続を要請した。

### 8.4 Student Branch について

平成 16 年度は、設置校 11 校 (会津大, 慶大, 電通大, 東工大, 都立高専, 東京理科大, 東北大, 豊橋技科大, 奈良先端大, 名大, 早大) で活動を行った。

また、ホームページ「学生のひろば」に Student Branch 試行設置校の活動紹介記事及び設置申込みから報告書作成までの資料、流れを掲載し、Student Branch 設置校の拡大を図った。

次年度から支部活動として実施するため、設置校の申請を各支部を通じて受け付けることとした。また来年度からの、各支部 Student Branch 設置校の活動については、学生会連絡会で報告し、各支部学生が自主的に参加し、運営していきける環境づくりを検討する。申請書等については、10 月初旬に、各支部に送付することとし、12 月 20 日を申請締切日とした。

平成 17 年度からは新たに徳島大の申請があった。

## 9. 男女共同参画に関する事項 (定款 第6条チ)

平成 15 年 7 月理事会において「男女共同参画委員会 (荒川薫委員長)」の設立が承認され、工学系の学会が連携している「男女共同参画学協会連絡会」に加盟し、女性研究者が快適となることの活動を開始した。17 年 1 月に会員に関するアンケートを実施し、17 年 3 月の総合大会において特別企画シンポジウム「電子情報通信工学における男女共同参画の現状と今後の展開」を開催した。

## 10. 検討部会に関する事項 (定款 第6条チ)

### 10.1 技術者教育認定制度について

「認定企画実施委員会 (APC)：篠田庄司委員長」において、JABEE (日本技術者教育認定機構) 及び関連学会と連携をとりながら審査を実施するとともに審査員の養成 (JABEE 審査員養成研修会に参加、及び自主研修会を 2 回実施; 参加者合わせて約 160 名) を開催した。

JABEE と CPD の最新の話題に関するシンポジウム (17 年 3 月総合大会特別企画) を開催した。

### 10.2 技術者の継続的専門能力開発について

「CPD (Continuing Professional Development) 部会：持田侑宏部会長」は、本会の技術者教育への取組みを JABEE 活動とともに CPD 活動を車の両輪として形成するとの位置付けから設置され、日本工学会下の PDE (Professional Development of Engineers) 協議会と連携して活動を進めている。特に本年度は、電気学会、情報処理学会と協力して、CPD を推進する上での共通の課題、検討項目を横断的に議論する合同打合せ会を設置し検討を行った。また、会誌 12 月号に「JABEE と CPD への取組み状況と最新の情報」の記事を掲載し、会員への周知を行った。

### 10.3 他学会との連携について

「電気・情報関連学会連絡協議会」(本会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会、情報処理学会) において各学会が直面している問題 (電子出版など) について話し合いを行っている。

### 10.4 グローバル化について

国際委員会において、学会のグローバル化の一環として、平成 14 年度に設置した海外地域代表者制度に、新たに香港、韓国地域を加えて、海外地域代表者を 9 名とした。また、海外地域代表者が当該地域において講演会等を企画・実施することに協力するとともに、本学会活動の周知・宣伝に努めた。第 3 回地域代表者会議を総合大会期間中 (大阪大学) の 3 月 22 日に開催し、タイベイ、北京、バンコク、シンガポール、インドネシア、韓国から代表者が出席し意見交換を行った。

### 10.5 卓越技術データベースの作成について

電気・情報関連 5 学会連携による平成 15 年度科学研究費補助金データベース作成活動を開始した。1980 年代を中心に世界のトップレベルに達した我が国の卓越技術の研究開発の歩みをデジタルアーカイブとして蓄積する。5 年間で 3,000 件 (うち、本学会分は 1,200 件) の卓越した日本の技術のデータを収集する。



## 11. 会員に関する事項（定款 第3章）

### 11.1 名誉員の推薦

赤崎 勇（名城大）  
 下村 尚久（元 東芝）  
 白川 功（兵庫県立大）  
 進士 昌明（東海大）  
 森永 規彦（広島国際大）

を定款第7条イ項により名誉員に推薦した。

### 11.2 会員の現況

会員増強委員会では、魅力ある会員制度、良好な会員サービス、積極的PRを通して会員を増強するという目的で検討を行い、(1)維持員へのリンクの作成、(2)正員に昇格した学生員に「正員証」の発送、(3) Student Branch の設立、(4) 会費滞納者へのきめ細かい対応等を継続して実行した。

また、特に会員継続と増強の施策として、(1)退会維持員への再入会、在会維持員への増口について会長名の依頼状の送付を行った。今後も時期をみて継続的に行う。(2)学生員から正員への昇格者に会費の半額免除等をより明確にアピールするため、きめ細かく連絡を取り、会員の継続を図った。(3)個人会員の滞納者については、メールでの会費督促回数を増やし、支払勧奨を行うとともに、役員・評議員から、所属の滞納会員に連絡をとった。学生員についても各大学の正員、各支部学生会顧問から連絡した。(4)学生員の増強と学生員から正員への定着率の増加として、Student Branch の設置校を募集し、11校の申し出があった。

(1) 会員数は次のとおりである。

会員種別	名誉員	正員	学生員	准員	特殊員	維持員	合計
平成15年度末会員数 ( )内はフェロー会員数	79 (4)	30,000 (392)	4,824	402	381	263	35,949 (396)
平成16年度末会員数 ( )内はフェロー会員数	80 (15)	29,378 (463)	5,221	266	365	252	35,562 (478)
前年度末との差	1 (11)	-622 (71)	397	-136	-16	-11	-387 (82)

(注) 名誉員の、宮憲一先生は16年4月4日に、新川浩先生は16年11月21日に、室谷正芳先生は17年2月8日に逝去された。

(2) 各支部における会員数は次のとおりである。

(平成16年度末)

( )内はフェロー会員数

支部/会員種別	名誉員	正員	学生員	准員	特殊員	維持員	合計	前年度差
北海道	1	506 (10)	219	0	5	5	736	44
東北	8	980 (31)	273	0	13	5	1,279	27
東京	58 (9)	18,053 (283)	1,818	3	211	167	20,310	-522
信越	0	505 (5)	127	0	15	9	656	-38
東海	1 (1)	1,865 (25)	444	0	32	20	2,362	48
北陸	0	486 (7)	164	0	10	1	661	48
関西	8 (3)	3,828 (58)	755	2	48	32	4,673	-8
中国	0 (1)	827 (13)	278	0	11	4	1,120	-17

四国	1 (1)	435 (5)	212	0	7	2	657	41
九州	0	1,202 (22)	489	1	12	7	1,711	12
海外在住	3	190 (3)	9	0	1	0	203	-38
Overseas	0	501 (1)	433	260	0	0	1,194 (1)	16
合計	80 (15)	29,378 (463)	5,221	266	365	252	35,562 (478)	-387 (82)

## II. ソサイエティ事業

ソサイエティ制開始10年目にあたる平成16年度は、各ソサイエティにおいても特色のある企画等を実施し、研究調査活動も順調に推移した。また、各ソサイエティの連携を図るためにソサイエティ連絡会を4回開催した。

### ◎ 基礎・境界ソサイエティ

基礎・境界ソサイエティは、伝統ある電子、情報及び通信分野の基礎を支えるとともに、新たな分野を創生すること(新分野開拓)が期待されている。この点を深く認識の上、ソサイエティ活動の活性化と会員サービスの充実に向け、引き続き努力を重ねている。

主な事業内容を以下に示す。

#### (1) 研究会活性化

ソサイエティ活性化ワーキンググループにおける議論を取り入れ、ソサイエティの基本的な活動である研究会の活性化事業に取り組んでいる。昨年度は各研究専門委員会を対象にアンケート調査を行い、各研究専門委員会の現状や活性化に向けての方策等のアンケート結果をソサイエティ運営委員会に報告し、研究会活性化に向けての方策を探った。今年度は、その議論を受けて、研究会活動費の傾斜配分を来年度より実施することを決めた。これは各研究会に自助努力の意識を持たせることを目的として、一律配分額10万円に技術研究報告の売上げの1%を加えたものを次年度の配分額とするものである。この活動実績による研究会活動費の配分は、これから実施されるであろうソサイエティの独立採算化への布石という意味合いも有する。

#### (2) 留学生組織の構築

ソサイエティ活性化基金の支援を受けて、海外からの留学生をターゲットとしたホームページを立ち上げ、その一部を昨年度公開した。このホームページを活用することにより、学生を組織化し、将来の海外会員の獲得を目指している。今年度は、この方向での更なる発展を目指す予定であったが、留学生担当のマイケル特別委員が本務多忙のため年度途中で辞任したために、後任委員の選定を含め事業の見直しに今年度の下半期は費やされた。そのために事業としてはやや中途半端なものとなってしまった。

#### (3) 英文論文誌の拡販と海外会員の獲得

ソサイエティ活性化基金の支援を受けて、昨年度に引き続き今年度も本ソサイエティが関係した国際会議を中心に英文論文誌の拡販と海外会員の獲得に向けた活動を展開した。活動内容は、英文論文誌無料配布や海外の会員申請者への1年間の無料購読特典の付与である。

#### (4) ソサイエティ大会・総合大会企画

ソサイエティ大会・総合大会にて特別講演、フェロー講演



などを実施し、一部の会員だけではなく非会員をも対象にした幅広い活動を展開した。特に本ソサイエティからの提案が本部企画に格上げされた事実は、本ソサイエティ事業の先進性を示すものであるといえよう。

#### (5) ソサイエティ内情報管理システムの構築

ソサイエティの効率的な運営を目指した情報管理システムの構築に向けての基礎的検討をスタートさせた。委員会管理システム、委員管理システム、ドキュメント管理システム、会計システム、広報システム、研究会管理システム、主催国際会議管理システム等を一元化した情報システムの構築を目指している。この事業はこれから数年をかけて実施する計画である。本年度はソサイエティのホームページの全面的な作り直しを行い、会員及び一般向けコンテンツの再構築に加えて、ソサイエティ運営の情報管理を WWW ベースで行うための仕組みを導入した。

#### (6) その他

各種の学術研究集会や国際会議などの共催・協賛など活発な事業を行った。

### ◎ 通信ソサイエティ

本年度は、「ソサイエティ独立採算化」を最大の活動目標とした。

そのため、運営委員会で大方針を決定したのち、平成 17 年度からの試行に向けての作業部会（タスクフォース）を設け、平成 15 年度までの検討結果を踏まえた改革案をまとめた。

更に、ソサイエティ活性化を目的とした、幾つかの施策を実施した。

#### (1) ソサイエティ独立採算化タスクフォース

財政面及び事業計画・実施面でソサイエティ独自の施策を実現可能とすることで、より一層の会員サービスの向上を目指すとともに、論文編集委員会・研究会等の活動のインセンティブをより高めることを目的として、ソサイエティ独立採算化を平成 17 年度から試行することにした。これに伴い、運営体制、論文誌発行事業、研究専門委員会、新規サービスのあり方について議論し、それらに関連したソサイエティの諸規定の改定案を作成した。

#### (2) ソサイエティ・研究専門委員会にかかわる会計処理の明確化

昨年度に引き続き、ソサイエティ独立採算化を目指した財政基盤整備の一環として研究専門委員会の会計明確化を検討し、本年度は決算報告手順を改善した。

#### (3) 研究活動評価委員会活動

研究活動の評価の指針として、・研究会に参加する会員の受けるサービス、・研究会の国際競争力の有無、・活発な意見交換ができる、・財務的に健全であるといった観点から、学生、大学、社会人ごとの研究活動の評価が可能なアンケートを実施した。また、ソサイエティ大会では特別企画として、評価委員会によるアンケート結果報告並びにパネル討論が行われた。この評価は、ソサイエティ独立採算化後も継続的に実施することとした。

#### (4) メーリングリストを用いた会員サービス

通信ソサイエティメーリングリスト、及び IEEE ComSoc の双方のメーリングリストを使った会員サービス（CFP や論文誌の目次の配信）を開始した。

#### (5) 通信ソサイエティホームページの充実化

通信ソサイエティホームページの更新を迅速に行うため

に、ホームページ管理委員会を設立し、ホームページの更新並びに英語化を進めた。

#### (6) Global News Letter の発行

一昨年度より実施した Global News Letter を本年度も継続的に発行した。

#### (7) ソサイエティ大会、総合大会について

本年度から、通信ソサイエティ功労感謝状贈呈、英語セッション奨励賞と合わせて、新たに優良査読者を対象とした論文誌賞を贈呈した。また総合大会では、通信ソサイエティレベルでの特別講演として、欧州宇宙機関（ESA）からの発表「土星の衛星タイタンへのホイゲンズの着陸成功と成果」を企画している。

### ◎ エレクトロニクスソサイエティ

電子情報通信学会会員数の連続的減少はエレクトロニクスソサイエティについても例外ではない。特に本来大いに学会活動が期待される若年層にその傾向が著しい。

エレクトロニクスソサイエティでは、そのような傾向に歯止めをかけ、またグローバル化に対応したより魅力ある学会活動を目指してきた。そのキーワードの一つは学会活動の効果的な電子化であり、種々の方面で検討が進められた。また、ソサイエティ活性化基金の更なる活用も進められた。平成 16 年度に行った主な活動は以下のとおりである。

#### (選奨及び独自活動関係)

(1) ソサイエティ独自の活動であるエレクトロニクスソサイエティ賞では、Si エレクトロニクス分野から宇佐美光雄氏（日立）、化合物半導体及び光エレクトロニクスの分野から野田進氏（京大）の 2 件が選定され、第 5 回フェロー推薦については 16 名の方がフェローの称号を授与されることとなった。また、下記 ELEX においても ELEX Best Paper Award が新たに設定された。

(2) ソサイエティ活動への地道な貢献に報いるためにソサイエティ功労者表彰制度については、本年度は 13 名の方に授与されることになった。

(3) 五つの関連研究会の合同大会であるサマーミーティングを 7 月 2 日に機械振興会館において行った。三村高志氏（富士通研究所）による招待講演を含め 2 セッションで開催し、盛況であった。

(4) 学会の将来を担う学生会員の学会活動促進のため、学生海外国際会議参加支援制度が昨年に引き続き行われ、本年度は 21 名に対し補助が行われ極めて有意義であった。

#### (論文出版及び電子化関係)

(1) 従来英文誌のグローバル化、発刊の迅速化、経費節減を目指し、Web を用いたペーパーレス研究速報英文論文誌（電子ジャーナル）(IEICE Electronics Express, 略称 ELEX) を 2004 年 4 月に創刊した。

(2) 従来より、より見やすく使いやすくするためソサイエティのホームページの更新を行った。

(3) 和文論文誌の電子化に関しては、既に 1996 年以降の電子化が行われていたが、本年度は更に 1991 年までさかのぼり閲覧を可能にすべく電子化の作業が進められた。

#### (研究会活動及び国際会議活性化)

(1) 時代の変化に対応した研究分野を構成し、新たなシーズ創出のための議論の場の構築の一環として、こ

れまでの第一種から第三種までの研究会のあり方や分野の再編などが議論された。第二種時限研究専門委員会活動において「ポリマー光回路時限研究専門委員会」の設立及び「超高速光エレクトロニクス時限研究専門委員会」、「集積光デバイス技術時限研究専門委員会」、「量子情報技術時限研究専門委員会」の継続が承認された。

- (2) 国際活動支援補助金を活用し、国際会議開催支援を積極的に行い、グローバルな学会活動の促進に大いに効果を上げることができた。

## ◎ 情報・システムサイエティ

情報・システムサイエティは、平成16年度において、七つの新研究会の立ち上げや、韓国情報科学会である KISS との協定の締結、大阪で開催された総合大会でのポスターセッションの試みなど多くの新規の取組みを行った。平成17年度においても更なる活動の場を広げていきたいと考えている。主な活動は以下のとおりである。

- (1) 情報科学技術フォーラム (FIT : Forum on Information Technology) の開催

ISS のサイエティ大会と情報処理学会 (IPSJ) の秋の全国大会を統合した FIT (情報科学技術フォーラム) は、9月7日から3日間、同志社大学京田辺キャンパスで開催された。大会準備前の5日は震度5の地震、初日の7日は台風18号接近と何かと心配事が多発したが、参加者も講演者901名、座長129名、一般聴講者746名、その他イベント講演者、招待者等の総参加者数1,916名の参加となりまずまずの参加者であった。ちなみに昨年札幌大会は1,969名であった。心配した財政面でも、心配した赤字とはならず、ほぼ成功であったといえる。メイン会場での金出先生の特別講演には、会場が満員となる574名の参加者があり、その他多くのパネル討論や各種の各イベント会場も多くの参加者であふれていた。平成17年度は、会場を東京の中央大学に移して行われる。

また、船井業績賞、船井ベストペーパー賞、FIT論文賞、FITヤングリサーチ賞を選定・表彰した。

- (2) 国外学会との提携

国際交流に尽力し、韓国情報科学会 (KISS) との交流協定締結を行い、6月に韓国ソウルにおいて締結式を催した。また、9月に開催された KISS の全国大会において中嶋会長が招待講演を行った。そして平成17年3月に大阪大学で開催された総合大会においては、KISS の KIM 会長の特別講演を行った。今後毎年、相互に会長が招待講演を行うことになっている。

また国際化の一層の発展を目指した、FIT INTERNATIONAL の実現に向けての話し合いが開始されており、平成17年度内における第1回目については韓国における開催を予定している。

- (3) 授賞に関する活動

ISS では、サイエティの独立性、活性化を図る施策として、サーベイ論文、先見論文、連作論文を選定対象とするサイエティ論文賞を設立している。毎年9月に開催される FIT 会場において表彰式を行った。

また情報・システムサイエティ活動功労賞を新たに創設し、多数の査読を行った査読委員等、サイエティの活動について顕著な功績があった、合計10名に対して贈呈し、FIT 期間中に贈呈式を行った。

- (4) 第5回フェロー称号贈呈式及び第6回フェロー候補者推薦

上記 FIT 開催地の京都においてフェロー称号贈呈式を行い21名の方々に贈呈した。第6回フェローについては、推薦を寄せられた中から ISS フェロー推薦委員会において審議し、15名の方々をフェローノミネーション委員会へ推薦する予定である。

- (5) 財務基盤改善・課題

ISS 財務基盤の確立に向けて ISS 財務改善 WG、ISS 編集会議を開催し、論文誌関連の経費削減、電子ジャーナルの有料化、総合大会・FIT の収支構造、技術研究報告予約価等について検討を行っている。

## ◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

平成16年度は、ヒューマンコミュニケーション基礎研究会 (HCS)、ヒューマン情報処理研究会 (HIP)、マルチメディア・仮想環境基礎研究会 (MVE)、福祉情報工学研究会 (WIT) の四つの第一種研究会、一つの第二種研究会「Web インテリジェンスとインタラクション研究会 (WI2)」及び一つの第三種研究会「手話情報学研究会 (SiLE)」の体制で活動を行った。

前年度に引き続き次の取組みを行った。

HCS、HIP、MVE、WIT は各々6回の研究会を開催した。Web インテリジェンスとインタラクション研究会 (WI2) は、平成16年7月1日付けで第二種研究会として発足し、2回の研究会と情報処理学会データベースシステム研究会の協賛・講演等を行った。

ヒューマンコミュニケーション賞の選定と表彰を行った。本賞は、第一種研究会の発表から一件ずつ、各研究会幹事団の投票の上、決定した。

情報・システムサイエティと情報処理学会が共催する「FIT (情報科学技術フォーラム)」には、共催メンバーとして参加した上で、WIT からイベント企画「誰でも参加できる学会を目指した情報保障のあり方について」を企画・実行した。

また、春の総合大会に合わせて平成17年3月24日(木)、25日(金)大阪大学基礎工学部豊中キャンパスで HCG シンポジウムを開催した。シンポジウムは、HCG 傘下の4研究会と第二種研究会「Web インテリジェンスとインタラクション」が同時開催の形で行い、80件余りの研究発表がなされた。その特別企画として、WIT 研究会から「誰でも参加できる学会を目指して：情報保障ワーキンググループの活動報告」を開催し HCG の情報保障に関する取組みについて報告した。MVE 研究会から「マッシュセンシング：大規模センサ群の人間社会への展開」を開催した。

英文論文誌 (ED) において、ヒューマンコミュニケーション I 特集号 (6月) を発行した。更に、平成17年6月に予定されているサイバーワールド特集号の発行に向けた編集活動の実施、平成18年6月にヒューマンコミュニケーション II 特集号に向けた企画の立案等を行った。

平成16年度の重点的な取組みとして、グループ活動に必要な情報基盤の整備を中心とする透明化を行い、新しい試みを定着させ、更なる活性化の基盤を固めた。この一環として、ホームページの改訂を大幅に行い、blog 化による機能強化 (フォーラム機能の追加、ファイルアップロード/ダウンロード機能の追加、メールフォーム機能の追加、サイト内検索機能の追加等) を行った。また、サイエティ活性化基金を得

て、情報保障 WG を立ち上げ、従来の情報保障方式の実践的評価、新しい情報補償システム開発、投稿時の情報保障に関するガイドライン「学会論文作成・発表アクセシビリティガイドライン」作成を中心とする活動を行った。更に、2 回のニューズレターを発行し、ホームページの充実と併せ、学会員へ HCG の活動を積極的に PR した。

## 1. 大会に関する事項 (定款 第 6 条ロ)

### 1.1 総合大会

期 日 平成 16 年 3 月 22 日(月)～25 日(木)  
 会 場 東京工業大学大岡山キャンパス(東京都目黒区)  
 参加者 5,745 名  
 講演件数

大会委員会企画	2 課題	7 講演
ソサイエティ特別企画	7 課題	34 講演
パネル討論	11 課題	52 講演
チュートリアル講演	10 課題	42 講演
一般講演		2,992 講演
シンポジウム講演		233 講演
合 計		3,360 講演

懇親会 東京工業大学大学食堂 (東京都目黒区)  
 参加者 200 名

### 1.2 ソサイエティ大会

下記の期日・会場において基礎・境界、通信、エレクトロニクスの各ソサイエティが合同して開催した。なお、情報・システムソサイエティ及びヒューマンコミュニケーショングループは、ソサイエティ大会とは別に情報処理学会と合同して FIT (情報科学技術フォーラム) 2004 を 9 月 7～9 日に同志社大学京田辺キャンパス (京都府京田辺市) において開催した。

期 日 平成 16 年 9 月 21 日 (火)～24 日 (金)  
 会 場 徳島大学常三島キャンパス (徳島市)  
 参加者 2,717 名  
 懇親会 同キャンパス内 第 1 食堂 参加者 165 名

(1) 大会委員会企画	1 講演
(2) 基礎・境界ソサイエティ大会	6 講演
パネル討論	30 講演
チュートリアル講演	211 講演
一般講演	47 講演
シンポジウム講演	
合 計	294 講演

### (3) 通信ソサイエティ大会

特別企画	18 講演
パネル討論	13 講演
チュートリアル講演	13 講演
一般講演	1,002 講演
シンポジウム講演	79 講演
合 計	1,125 講演

### (4) エレクトロニクスソサイエティ大会

特別企画	2 講演
パネル討論	5 講演
チュートリアル講演	4 講演
一般講演	423 講演
シンポジウム講演	42 講演
合 計	476 講演

### 1.3 FIT 2004 (第 3 回情報科学技術フォーラム)

下記の期日・会場において情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ及び情報処理学会が合同で開催した。

期 日 平成 16 年 9 月 7 日 (火)～9 日 (木)  
 会 場 同志社大学 (京都府京田辺市)  
 参加者 1,916 名  
 懇親会 同志社大学紫苑館食堂 参加者 147 名  
 イベント企画

特別講演	1 講演
研究会提案企画	10 課題 39 講演, パネル討論 7 講演
委員会提案企画	6 課題 15 講演, パネル討論 5 講演
現地提案企画	1 課題 15 講演, パネル討論 1 講演
船井ベストペーパー賞選考会	12 講演
情報技術レターズ	112 講演
一般講演	724 講演

## 2. 国際会議に関する事項 (定款 第 6 条ロ, チ)

次のとおり開催した。

会 議 名	開催年月日	参加者数	論文数	場 所	
COOL Chips VII	2004.4.16 ～18	192	40	横浜情報文化センター	ES
2004 年環境電磁工学国際シンポジウム (EMC'04/Sendai)	2004.6.1 ～4	488	238	仙台国際センター	CS
2004 International Technical Conference on Circuits/Sys-tems, Computers and Communications (ITC-CSCC2004)	2004.7.6 ～8	433	390	宮城県:松島	ESS
第 9 回光エレクトロニクス・光通信国際会議 (OECC2004)	2004.7.12 ～16	652	464	バシフィコ横浜	CS ES
2004 年アンテナ伝播国際シンポジウム (ISAP'04)	2004.8.17 ～21	557	347	仙台国際センター	CS
Joint Conference on Knowledge-Based Software Engineering	2004.8.25 ～27	80	33	Protvino (ロシア)	ISS
第 19 回 IEEE 半導体レーザ国際会議	2004.9.21 ～25	204	71	くにびきメッセ	ES
2004 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA2004)	2004.11.29 ～12.3	212	191	福岡市:アクロス福岡	ESS
IEEE Pacific Rim Conference on Multimedia	2004.11.30 ～12.3	347	270	国際交流会館 (お台場)	ISS

## 3. 出版に関する事項 (定款 第 6 条イ)

### 3.1 和文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に 5 種類をそれぞれ次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は 8,978 ページである。

分 類	論 文	レター	その他	計	特集回数	発行部数
	件 数 ページ数	件 数 ページ数	— ページ数	件 数 ページ数		
分 冊	135	44	—	179	3	86,400
	1,338	191	159	1,688		
A	207	38	—	245	4	149,300
	2,103	170	173	2,446		
B	100	40	—	140	2	95,400
	866	111	159	1,136		



D-I	125	9	—	134	4	69,000
	1,365	37	176	1,578		
D-II	178	24	—	202	1	96,000
	1,873	113	144	2,130		
計	745	155	—	900	14	496,100
	7,545	622	811	8,978		

\*その他：総目次 69 ページ、巻頭言 21 ページ、英文誌紹介 141 ページ、特集号募集案内等付物 580 ページ

### 3.2 英文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に 4 種類をそれぞれ次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は 13,498 ページである。

分類 分冊	Paper	Letter	その他	計	特集回数 回	発行部数 部
	件数 ページ数	件数 ページ数	— ページ数	件数 ページ数		
A	358	117	—	475	13	30,500
	2,969	458	221	3,648		
B	384	187	—	571	7	40,200
	3,495	795	224	4,514		
C	267	64	—	331	13	32,600
	1,955	233	194	2,382		
D	273	65	—	338	9	28,800
	2,420	282	252	2,954		
計	1,282	433	—	1,715	42	132,100
	10,839	1,768	891	13,498		

\*特集回数は特集企画本数で計算 (1 企画を 2 号に分けて掲載した場合は 1 と計算)

\*その他：総目次 133 ページ、Abstract 237 ページ、Foreword 51 ページ、特集号募集案内等付物 470 ページ

### 3.3 電子ジャーナル

エレクトロニクスソサイエティでは、本会初の Web を用いたペーパーレス研究速報英文論文誌「IEICE Electronics Express (略称 ELEX)」(月 2 回発行) を平成 16 年 4 月 10 日に創刊し、141 件、810 ページを掲載した。また、平成 16 年の掲載論文を収録した CD-ROM をエレクトロニクスソサイエティ和・英論文誌平成 17 年 3 月号に挟み込むと同時に販売・宣伝用に 800 枚作成した。

### 3.4 ニュースレターの発行状況

各ソサイエティ及びグループでは活動の一環としてニュースレター、ソサイエティ誌を論文誌等の付録として下記のとおり発行した。

基礎・境界ソサイエティ	4 回	16 ページ
通信ソサイエティ	4 回	68 ページ
エレクトロニクスソサイエティ	12 回	48 ページ
情報・システムソサイエティ	5 回	112 ページ
ヒューマンコミュニケーショングループ	2 回	8 ページ

### 3.5 論文誌 CD-ROM の発行

和・英論文誌平成 16 年の年間目次、分野別索引、著者索引、キーワード索引を閲覧することができる CD-ROM を下記のとおり発行した。

和文誌 A	200 枚	英文誌 EA	200 枚
B	250 枚	EB	200 枚
C	200 枚	EC	200 枚
D	250 枚	ED	200 枚

### 3.6 IEICE Transactions Online

有料化に向けた第一段階として、平成 16 年 6 月 1 日から

個人認証システムの導入を行い、本文 PDF の閲覧には ID、パスワードの入力が必要になった。また、和文論文誌の公開時期を発行日から半年後としていたのを、英文論文誌と同じ 20 日後とした。和文論文誌は 1991 年から、英文論文誌は、創刊号からの電子データ化を行い、1976 年からの閲覧が可能となった。

また、英文論文誌は、オックスフォード大学出版局を通じてスタンフォード大学図書館が運用する HighWire での試行的無料公開を平成 17 年 1 月号から開始した。

## 4. 選奨に関する事項 (定款 第 6 条ホ、へ)

所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

### 4.1 通信ソサイエティ英語セッション奨励賞

論文名	著者名 (所属)
Generalized OFDM with Frequency-Domain Equalization in a Frequency Selective Rayleigh Fading Channel	Haris Gacanin (東北大)
ML Detection for Single Carrier Transmission over Frequency Selective MIMO Channels	Yuanrun Teng (三重大)

以上 2 編

### 4.2 エレクトロニクスソサイエティ賞

分野	業績	貢献者 (所属)
第 1 分野	アンテナ搭載超小型無線 IC タグチップ技術の開発	宇佐美光雄 (日立)
第 2 分野	フォトニック結晶に関する先駆的・独創的研究	野田 進 (京大)

以上 2 件

### 4.3 情報・システムソサイエティ論文賞

論文名	著者名 (所属)
【サーベイ論文】 離散画像解析のための形状表現法に関するサーベイ	剣持 雪子 (岡山大)

以上 1 編

### 4.4 FIT の各賞

(情報・システムソサイエティ及びヒューマンコミュニケーショングループと情報処理学会との合同)

#### (1) 船井業績賞

業績	貢献者 (所属)
コンピュータビジョンおよびロボティクスの分野に極めて広範囲に渡る先駆的な業績	金出 武雄 (CMU)

以上 1 件

#### (2) 船井ベストペーパー賞

講演題目	受賞者 (所属)
Behind Touch 2: 視覚障害者のための触覚・音声による携帯電話インタフェース	平岡 茂夫 (福岡工大) 宮本 一伸 (アイム) 富松 潔 (九大) 高橋 広 (柳川リハビリテーション病院)
スポッティバイト誤り制御符号	櫻山 俊彦 (東工大) 鈴木 一克 (東工大) 藤原 英二 (東工大)
事後確率構造の可視化	岩田 具治 (NTT) 斉藤 和巳 (NTT) 上田 修功 (NTT)

以上 3 編



(3) FIT 論文賞

講演題目	受賞者(所属)
遺伝子の機能分類を利用した遺伝子制御ネットワーク推定手法	瀧 浩平 (阪大) 寺本 礼仁 (住友製薬) 竹中 要一 (住友製薬) 松田 秀雄 (阪大)
印象に基づく楽曲検索のための個人適応手法の設計と評価	熊本 忠彦 (NICT)
単一の長大なデータ系列上の系列パターンの出現尺度とその逆単調性	高野 洋 (日本システムデベ ロップメント) 岩沼 宏治 (山梨大) 鍋島 英知 (山梨大)
実世界の音楽音響信号に対するドラムスの音源同定手法を利用したドラムイコライズシステム INTER:D の開発	吉井 和佳 (京大) 後藤 真孝 (産総研) 奥乃 博 (京大)
動的イベントの分節化・学習・認識のための Hybrid Dynamical System	川嶋 宏彰 (京大) 堤 公孝 (京大) 松山 隆司 (京大)
H.264/MPEG-4 AVC の重み付き動き補償における高速重み係数推定の一検討	加藤 晴久 (KDDI 研) 中島 康之 (KDDI 研)
話者の注目喚起行動による机上作業映像の自動編集—ユーザインタフェースの側面からの評価—	尾関 基行 (筑波大) 中村 裕一 (京大) 大田 友一 (筑波大)
発信者詐称 spam メールに起因するエラーメール集中への対策手法	山井 成良 (岡山大) 繁田 展史 (三菱コントロール ソフトウェア) 岡山 聖彦 (岡山大) 宮下 卓也 (岡山大) 丸山 伸 (京大) 中村 素典 (京大)
Java プログラミング演習向け課題レポート提出・管理機能を付加した授業支援システム	熱田 智士 (芝浦工大) 松浦佐江子 (芝浦工大)

以上 9 編

(4) FIT ヤングリサーチャー賞

候補者名	所属	講演番号	講演タイトル
磯村 学	KDDI 研	M-070	モバイルルータのための異種通信メディアの逆多重方式の性能評価
岩崎季世子	奈良先端大	D-017	撮影位置情報と Web 検索を用いた写真及び映像インデキシング法
岩村 誠	NTT	M-088	バッファオーバーフロー発生要因の特定方法
大西隆之	NTT	J-003	双方向映像通信 MPEG-2 ソフトウェア CODEC 向き遅延 FEC の一検討
		L-032	低遅延映像通信に向けた FEC 中継方式に関する一検討
笹田慶二郎	同志社大	LO-001	子育て支援を目指した「e-子育て NET システム」の提案
澤島康仁	NHK	K-075	頭部の自由な動きを許容する視線測定システム
高橋桂太	東大	J-010	合焦判定に基づく全焦点 Light Field Viewer
竹村雅幸	筑波大	LK-003	協調型複合現実空間のためのアイコンタクトの復元～視線認知実験と顔映像の高精細化～
中村克行	東大	I-081	マルチレーザスキャナを用いた通行人数の自動計測
西本友成	NHK	D-038	サーバー型放送で利用するメタデータのデジタル署名方式
帆足啓一郎	KDDI 研	D-003	コンテンツ非依存特徴量に基づく動画話題分割手法
松村篤志	KDDI 研	J-012	動的に更新される背景バッファを用いた高画質多視点 VoD システムのソフトウェア実装

以上 12 編

5. 研究会等に関する事項 (定款 第6条ロ, ハ)

5.1 基礎・境界ソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：38 回 第一種研究会：104 回 (うち地方開催 58 回)

また、第二種研究会、第三種研究会及び学術研究集会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
回路とシステム	上野 修一	5 (5)	119
情報理論	岡 育生	5 (4)	89
信頼性	益田 昭彦	8 (5)	67
超音波	榑引 淳一	11 (3)	108
応用音響	金田 豊	11 (6)	144
非線形問題	林 初男	8 (7)	130
VLSI 設計技術	村岡 道明	6 (4)	150
情報セキュリティ	林 彬	6 (3)	145
信号処理	藤井 哲郎	8 (7)	163
ワイドバンドシステム	太刀川信一	5 (2)	165
コンカレント工学	辻 孝吉	4 (3)	50
思考と言語	伊藤 憲治	5 (1)	104
技術と社会・倫理	酒井 善則	5 (2)	29
安全性	長岡 栄	6 (1)	44
ITS	長谷川孝明	7 (2)	100
スマートインフォメディアシステム	宮永 喜一	4 (3)	71

注：研究会開催数の ( ) 内は地方支部等での開催数

5.2 通信ソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：44 回 第一種研究会：115 回 (うち地方開催 73 回) 別に、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
アンテナ・伝播	唐沢 好男	10 (4)	355
宇宙・航行エレクトロニクス	前田 惟裕	10 (2)	123
衛星通信	川合 誠	6 (3)	173
環境電磁工学	小塚 洋司	8 (4)	163
ネットワークシステム	笹瀬 巖	10 (8)	340
情報ネットワーク	村田 正幸	10 (8)	340
通信方式	前田 洋一	7 (7)	255
電子通信エネルギー技術	谷内 利明	6 (2)	79
光通信システム	鹿田 實	7 (6)	158
無線通信システム	三瓶 政一	9 (6)	439
コミュニケーションオリティ	山本 尚生	5 (5)	129
フォトニックネットワーク	佐藤 健一	6 (5)	110
光ファイバ応用技術	小山田弥平	6 (4)	126
テレコミュニケーションマネジメント	藤井 伸朗	5 (4)	115
モバイルマルチメディア通信	数崎 正実	6 (4)	217
インターネットアーキテクチャ	江崎 浩	4 (2)	39

5.3 エレクトロニクスソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：24 回 第一種研究会：119 回 (うち地方開催 66 回)

また、第二種研究会及び第三種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
機構デバイス	谷口 正成	11 (4)	127
磁気記録	三浦 義正	7 (4)	78
超伝導エレクトロニクス	栗城 真也	4 (2)	46
電子ディスプレイ	苗村 省平	7 (1)	93
電子デバイス	榎木 孝知	12 (11)	254
電子部品・材料	星 陽一	11 (6)	186
電磁界理論	安藤 真	4 (3)	96

シリコン材料・デバイス	堀口 文男	12 (7)	263
マイクロ波	高山洋一郎	10 (6)	345
集積回路	亀山 充隆	10 (7)	247
有機エレクトロニクス	勝部 昭明	14 (6)	140
光エレクトロニクス	和田 朗	10 (4)	228
レーザ・量子エレクトロニクス	荒井 滋久	7 (5)	165

#### 5.4 情報・システムソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：37回 第一種研究会：116回（うち地方開催80回）

また、第二種研究会及び第三種研究会を開催した。

##### 第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
MEとバイオサイバネティクス	木内 陽介	9 (8)	130
オフィスインフォメーションシステム	森井 昌克	6 (5)	111
画像工学	遠藤 真	10 (9)	234
言語理解とコミュニケーション	出羽 達也	5 (3)	160
コンピュータシステム	木村 康則	6 (3)	119
コンピューテーション	山下 雅史	8 (5)	88
人工知能と知識処理	桑原 和宏	5 (3)	104
ソフトウェアサイエンス	佐伯 元司	6 (5)	67
データ工学	横田 治夫	3 (2)	119
パターン認識・メディア理解	萩田 紀博	10 (8)	273
ディペンダブルコンピューティング	古屋 清	7 (3)	112
ニューロコンピューティング	渡辺 澄夫	8 (6)	234
知能ソフトウェア工学	廣田 豊彦	6 (3)	65
音声	広瀬 啓吉	10 (6)	174
教育工学	米澤 宣義	9 (7)	130
医用画像	田村 進一	5 (4)	113
ソフトウェアインタプライズモデリング	片岡 信弘	3 (0)	20

#### 5.5 ヒューマンコミュニケーショングループ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：11回 第一種研究会：23回（うち地方開催17回）

また、第二種研究会及び第三種研究会を開催した。

##### 第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
ヒューマンコミュニケーション基礎	森島 繁生	6 (5)	72
ヒューマン情報処理	矢野 澄男	6 (5)	113
マルチメディア・仮想環境基礎	美濃 導彦	6 (5)	83
福祉情報工学	岡本 明	5 (2)	87

### 6. データベースに関する事項（定款 第6条チ）

科学技術振興事業団（JST）に対して、学会発表論文のデータベース作成に協力し、総合大会発表論文、ソサイエティ大会発表論文、和・英論文誌のデータベース化情報を提供した。

### 7. 会員に関する事項（定款 第3章）

各ソサイエティ及びグループにおける会員数は次のとおりである。

	ESS	CS	ES	ISS	HCG	合計
平成15年度末登録数 ( )はフェロー会員数	7,530 (87)	13,860 (97)	8,707 (86)	11,908 (126)	969	42,974 (396)
平成16年度末登録数 ( )内はフェロー会員数	7,384 (99)	13,487 (128)	8,390 (103)	11,704 (148)	956	41,921 (478)
前年度との差	-146 (12)	-373 (31)	-317 (17)	-204 (22)	-13	-1,053 (82)

(注) ESS：基礎・境界ソサイエティ，CS：通信ソサイエティ，ES：エレクトロニクスソサイエティ，ISS：情報・システムソサイエティ  
HCG：ヒューマンコミュニケーショングループ

## Ⅲ. 支部事業

各支部において、講演会、講習会、見学会、大会等を次のとおり開催した。

### 1. 北海道支部

講演会	9回	学生会講演会	4回
支部連合大会	1回	学生会見学会	2回
研究会	40回		

### 2. 東北支部

学術講演会	21回	先端技術シンポジウム	1回
学術公開講演会	1回	見学会	1回
特別講演会	14回	支部連合大会	1回
地区講演会	2回	研究会	36回
専門講習会	1回	学生向け事業	1回

### 3. 東京支部

講演会	3回	学生会講演会	2回
シンポジウム	5回	学生会見学会	2回
地域イベント	3回	学生会研究発表会	1回
見学会	3回	学生会報の発行	1回
研究会	182回	学生親睦会	1回

### 4. 信越支部

講演会	11回	支部大会	1回
専門講習会	1回	研究会	13回
見学会	2回	学生向け事業	1回

### 5. 東海支部

講演会	5回	研究会	38回
専門講習会	1回	学生会講演会	10回
見学会	1回	学生会見学会	2回
支部連合大会	1回		

### 6. 北陸支部

特別講演会	1回	研究会	14回
講演会	10回	学生会講演会	10回
見学会	1回	学生研究発表会	1回
支部連合大会	1回		

### 7. 関西支部

講演会	2回	支部連合大会	1回
中高生向け講演会	1回	研究会	67回
専門講習会	3回	学生講演会・見学会	1回
見学会	1回	学生会研究発表会	1回

### 8. 中国支部

講演会	25回	支部連合大会	1回
専門講習会	1回	研究会	14回
見学会	1回	学生向け講演会・見学会	1回

### 9. 四国支部

講演会	21回	研究会	17回
専門講習会	2回	学生会講演会	13回
支部連合大会	1回	学生会展示会	3回

### 10. 九州支部

特別講演会	2回	支部連合大会	1回
講演会	15回	研究会	55回
専門講習会	1回	学生会講演会	1回
普及啓発活動	1回	学生員向け講習会・見学会	2回

## 役員、評議員及び代議員の改選結果報告

平成17年度の役員、評議員、代議員の改選は所定の手続きによって行われた。

平成17年2月10日に正員に投票を依頼し、3月3日に締め切り、その開票結果を理事会に送り当選者を決定した。この結果、理事伊賀健一、甘利俊一、三木哲也、池上徹彦、小林功郎、津田俊隆、須藤昭一、阪田史郎、小柴正則、中村勝洋、赤岩芳彦、今井元、中嶋正之及び監事弓場英明は退任することになり、新たに伊澤達夫、青山友紀、赤岩芳彦、中嶋正之、並木淳治、篠原弘道、土井美和子、桑原秀夫、坂庭好一、井上友二、保立和夫、木戸出正継が理事に、今井和雄が監事に就任することになった。また、役員・評議員は選出代議員となる。

なお、本日の通常総会において退任、留任、新任される役員・評議員・代議員は次のとおりである。

役 職 名	退 任	留 任	新 任
会 長	甘利 俊一		齊藤 忠夫
前 期 会 長	伊賀 健一		
次 期 会 長	齊藤 忠夫		伊澤 達夫
副 会 長 (在京)	三木 哲也	鈴木 滋彦	青山 友紀
副 会 長 (地方)	池上 徹彦	白川 功	赤岩 芳彦
総 務 理 事	小林 功郎	中野 博隆	中嶋 正之
会 計 理 事	津田 俊隆	間瀬 憲一	並木 淳治
編 集 理 事	須藤 昭一	酒井 善則	篠原 弘道
企 画 理 事	阪田 史郎	成宮 憲一	土井美和子
調 査 理 事	小柴 正則	森広 芳照	桑原 秀夫
編 集 長 (理事)		篠田 庄司	
企 画 室 長 (理事)		古井 貞熙	
規格調査委員長 (理事)		高木 幹雄	
ESS 会長 (理事)	中村 勝洋	築山 修治	(次期会長) 坂庭 好一
CS 会長 (理事)	赤岩 芳彦	持田 侑宏	井上 友二
ES 会長 (理事)	今井 元	中沢 正隆	保立 和夫
ISS 会長 (理事)	中嶋 正之	雨宮 真人	木戸出正継
監 事	弓場 英明	後藤 裕一	今井 和雄
評 議 員 (在京)	青山 友紀	安藤 真	市川 晴久
〃	荒木 純道	石川 宏	小館香椎子
〃	石原 直	河内 正夫	津田 俊隆
〃	木下 耕太	正村 達郎	中嶋 信生
〃	並木 淳治	安田 浩	三木 俊雄
評 議 員 (地方)	安達 文幸	栗井 郁雄	板倉 文忠
〃	石井 光雄	伊藤 弘昌	尾家 祐二
〃	尾家 祐二	熊谷 貞俊	小柴 正則
〃	鳥村 和典	高橋 達郎	野田 進
〃	谷本 正幸 (間瀬憲一)	安浦 寛人	森永 規彦
評 議 員 (会長指名)	荒川 薫	浅見 徹	荒川 薫
〃	石田 晶	大柴小枝子	大石 進一
〃	川上 博	喜多 泰代	鎌倉 勝利
〃	趙 晋輝	倉本 實	趙 晋輝
〃	土井美和子	杉村 領一	富田 義数
〃	西澤 台次	長谷川晴朗	西澤 台次
〃	船造 康夫 (虎沢研示)	畑岡 信夫	林 秀樹
〃	山内 良三	福沢 恵司	柳川 久治
〃	覧具 博義	榎並 和雅 (三宅 誠)	山内 良三
〃	李 可人	村上 篤道	李 可人
評議員 北海道支部長	渡辺 一央		牧野 哲也
〃 東北支部長	根元 義章		佐藤 進
〃 東京支部長	青山 友紀		並木淳治(理事につき評議員としない)
〃 信越支部長	山沢 清人		深海 龍夫
〃 東海支部長	田中甲志雄		荒井 英輔
〃 北陸支部長	日比野 靖		山瀧 龍夫
〃 関西支部長	山田 隆持		濱 裕光
〃 中国支部長	山口 静馬		本多 茂男
〃 四国支部長	川上 博		三村 尚史
〃 九州支部長	香田 徹		長谷川 勉
評議員 (学生会顧問)			
〃 北海道支部	初田 健		雨宮 好仁
〃 東北支部	大場 佳文		野口 一博
〃 東京支部	山崎 浩一		佐波 孝彦

〃 信越支部	井澤 裕司		今井 博英
〃 東海支部	中川 聖一		藤原 修
〃 北陸支部	高橋 隆一		山根 智
〃 関西支部	樋口 昌宏		飯田 元
〃 中国支部	大野 修一		宮原 哲浩
〃 四国支部	市川 裕之		橋爪 正樹
〃 九州支部	佐々木伸一		田中 俊幸

備考：( ) 内は年度の途中において交代した前任者を示す。

互選代議員	阿部 匡伸	青木 清児	相澤 清晴
〃	伊藤 憲三	荒木 純道	井上 真杉
〃	伊藤 哲朗	井上 誠也	伊藤 健一
〃	石橋 豊	泉田喜一郎	伊藤 哲朗
〃	今井 浩	乾 敏郎	上村 弘之
〃	潮 俊光	大沢 秀則	榎生 逸雄
〃	江村 克己	大町真一郎	江村 克己
〃	小川 勝	太田 直久	小原 仁
〃	大重 誠也	岡本 好弘	加藤 景三
〃	岡田 浩司	神原 栄	川副 和宏
〃	片木 孝至	北村 泰彦	佐久我 守弘
〃	川又 憲	九鬼 孝夫	久野 義徳
〃	神林 紀嘉	久保 智裕	葛原 正明
〃	岸田 悟	栗山 繁	河野 隆二
〃	北島 秀夫	小林 正樹	河野 隆二
〃	黒田 英夫	斎藤 武夫	佐藤 純
〃	小出 哲士	真田 博文	笹岡 秀一
〃	佐々木重信	塩本 公平	潮崎 浩則
〃	柴田 泰夫	清水 利朗	白井 宏
〃	新宮 英樹	菅沼 明	曾我 哲夫
〃	田中 正人	杉浦 行	田井 秀一
〃	棚橋 齊	須田 博人	田中稔次朗
〃	谷岡 匠健	芹川 聖一	高木 直史
〃	陳 修治	千田 信久	高嶋 俊英
〃	築山 修治	田口裕二朗	高橋 広基
〃	中川 聖一	田中 清	橋 俊郎
〃	中村 靖	田村 裕	新田 恒雄
〃	西田 豊明	高橋 隆一	西尾 芳文
〃	沼田 哲宏	辻 寧英	沼田 哲宏
〃	橋爪 正樹	戸井 章夫	荻戸 立夫
〃	福永 哲也	渡久地 實	原田 耕一
〃	福本 昌弘	中尾 康二	藤野 義之
〃	松島 章	長尾 智晴	真鍋 克也
〃	松田 宏之	仲野 豊	牧野 正三
〃	水谷 孝	西原 明夫	松嶋 敏泰
〃	村井 俊文	沼 昌宏	松田 弘成
〃	村瀬 亨	野口 義夫	宮原 末治
〃	山崎 恆樹	野中 弘二	森川 功治
〃	山田 勝己	藤原 修	森塚 宏平
〃	山田 茂	藤原 修	矢野 健剛
〃	山田 茂樹	森倉 晋	湯川 高志
〃	吉田 宏	山里 敬也	吉田 宏
〃	渡辺 壮一	山根 國義	渡辺 一央
〃	渡辺 文夫	渡邊	